

浜松観光ボランティアガイドの会

2023年度新人養成講座開講

20名が受講

2024年1月15日(月)に「26期」「はままつ案内人新人養成講座」が20名の受講者の参加(男性11名、女性9名)で可美公園総合センターの研修室で開講いたしました。毎週月曜日の9時30分から12時までの全8回開催されます。本号では前半3回分を記載します。

【第1回・1月15日】鈴木会長から「当会は25年の歴史があり今でも2名の1期生の方がいらっしゃいます。皆さんは26期生になります。静岡県では一番大きい会です。私たちとガイド活動を一緒に行いましょう。」との挨拶がありました。

春日事務局長の講座の日程説明に続いて席の前後の4人で自己紹介し5分間のアイスブレイクですが、「大河ドラマ館」のボランティア仲間が8人いるらしく大変話が弾んでいるようでした。緊張がほぐれたところで古本南ブロック長の「ガイドの基本」の話がありました。「ルールの遵守」としてガイド時間ガイド開始10分前、服装、施設管理、日報記載。また接客の5原則は①身だしなみ②挨拶③表情④話し方⑤態度、いつも忘れないように心掛けることの大切さについての話がありました。その後、古本さんの「浜松と天竜川」の話となりました。浜松の中心部は暴れ天竜川がつくった三方原と磐田原の2つの河岸段丘に囲まれた扇状地上に発展していること。「浜北原人」の時代から「蜆塚・伊場遺跡」の時代、さらに現在の浜松にいたるまで私たちが天竜川の恩恵を受けてきたことをわかりやすく説明されました。

【第2回・1月22日】研修部長の岩城さんの「お城とは」のお話です。3世紀の弥生時代の「環濠集落」からのお城の歴史を話し、立地により山城、平山城、平城、水城があり、縄張りや曲輪によっても分けられる事を知りました。江戸幕府による一国一城令により全国に3000あった城が170になったとのこと。明治になって20城を残して150城は払い下げになった。今は国宝5、重要文化財7の12城です。今各地で見られる天守は、現状により「現存・木造復元・外観復元・復興・模擬」の5つに分類されるそうです。ちなみに浜

松城の種別は「模擬天守」です。この日最後は研修部の桶田さんの「浜松城の石垣」のお話です。浜名湖の湖岸からの切り出した石の運搬方法の説明。そして浜松城自慢の「野面積」の積み方、9か所の特徴ある積み方の説明。29日の現地研修での確認が楽しみです。石垣の石の積み方には時代の流れ順に「野面積」「打込接」「切込接」の3種類があるとの説明がありました。



「浜松城の石垣」の説明をする桶田さん

広報部 阿形守康(東ブロック)

【第3回・1月29日・現地研修「浜松城及び周辺を歩く」】快晴で風がなくて穏やかな日になり、受講者20名に加えて浜松城の職員3名及び25期生4名、更に受講者のお子さん(2歳のちびっ子)も特別参加で和やか研修会となりました。9時10分に5グループに分かれて第2回の講義に沿ってお城の現物を研修部員の皆さんが詳しく説明しました。天守曲輪をスタートして埋門を出て西端城曲輪、清水曲輪、腰曲輪、富士見櫓、本丸を經由し、道中の石垣をたっぶり見ることで浜松城の価値と魅力を学ぶことができたと思います。その後、作左曲輪経由で動物園跡の高台に着き、ここはかつてのロープウェイの発着場とのことで、天守の真北に位置し、当時の写真を見ることで当時の賑わいをしのびました。その後、元城町東照宮、引間城跡、元目口、下垂口を見学して、浜松城南入口に無事到達して11時半に解散しました。

現地研修では実際にガイドする時の知識とコツを学ぶことで、知的好奇心を満たしてもらい、早く一人前の観光ボランティアガイドに育ってほしいと思います。

事務局 春日康治(西ブロック)

“ありがとう大河ドラマ館”クロージングセレモニー



当会の同行ガイド協力に対して感謝状授与

大河ドラマ「どうする家康」の放送開始に合わせ、2023年1月22日にプレオープン、3月18日にグランドオープンした「どうする家康 浜松 大河ドラマ館」が、2024年1月14日に営業最終日を迎えました。穏やかな晴天の下、クロージング(閉館)セレモニーが13時から浜松出世パーク「葵広場」で行われました。

はじめに中野祐介浜松市長、斉藤薫家康プロジェクト推進協議会会長(浜松商工会議所会頭)、徳川家広ドラマ館名誉館長(徳川宗家第19代当主)の順番でスピーチが行われました。徳川家広さんは「最初は違和感をおぼえた方もいたかと思いますが、令和の時代に最も現代的な俳優の松本潤さんが徳川家康を演じたことに意義がある」と講評されていました。



中野市長から感謝状授与の鈴木会長

その後、中野市長より感謝状が当会鈴木会長と大河ドラマ館運営ボランティアの代表の方へ授与されました。

続いて大河ドラマ制作統括の村山峻平チーフプロデューサーや阿茶局を演じた松本若菜さんが登壇し、それぞれ記念品の授与とスピーチが行われました。村山さんのスピーチでは、「ドラマの中では浜松以外のシーンのいくつかを実は浜松で撮影した」、「5

月5日に行われた浜松まつりの騎馬武者行列当日、徳川家康を演じた松本潤さんがオープン前のドラマ館に入ってパネルにサインをした」、などの裏話が聞けました。松本さんからは「実はドラマ館に来たのは最終日の今日が初めてで、来ることができて嬉しかった」、「家康の後半生に活躍した『側室で側近(松本さんの発言より)』の阿茶局役の撮影は、昨年9月から3か月間だった」などの話が聞けました。最後は当会鈴木会長含む出席者全員で記念撮影をして、13時40分に予定通りセレモニーが終了しました。セレモニー後も入場者は増える一方だったドラマ館も18時に閉館時間を迎え、ドラマ館のボランティアの皆さんが総出で「ありがとう軍配」を持って最後のお客様を見送ったそうです。中野市長はドラマ館閉館の瞬

間にも立ち会われて、ボランティアへのお礼の言葉と感謝状を贈ったとのことでした。

当会会員も多くの人がドラマ館のボランティアとしても活動しましたので、その中の二人に感想を聞きました。

『大河ドラマ館のボランティアに週一回程度で参加しました。館内で、場所固定、監視中心のため、あまり、浜松観光ボランティアガイドの会で学んだ知識を活用することはありませんでした。ただ、いろいろな人がおり、自分の知識を深めたりする事もありましたので、参加して良かったと思います。(北ブロック 小栗康男さん)』

『大河ドラマ館は自宅から徒歩5分なので、1年間ボランティアをすることにしました。多くの来場者とお話をさせていただいたのですが、ひとり旅で来た松本潤さんファンの女性や歴史好きな男性などの若い人との会話が楽しかったです。話し相手の皆さんが「こちらがしゃべってばかりですみません!」と言われるほど、私はほとんど聞き手でしたが、そういった交流や優しい気遣いが味わえてうれしかったです。(北ブロック 高羽百代さん)』

翌日の新聞報道によると浜松大河ドラマ館の入場者数の合計は64万314人で、最終日には8000人近

くの入場者があったとのことでした。テレビ放映は12月17日が最終回で、余韻冷めやらぬ中でのドラマ館閉館となり寂しくなりますが、「女城主直虎」に続くこの地域の歴史のレガシーの一つとして「どうする家康」をこれからも大切にしていきたいと思います。

なお、当会の浜松駅からドラマ館までの同行ガイド協力の実績は2023年4月~6月、10月~12月で催行日数48日(計画は57日)、延回数71回、総参加人数(お客様)215名でした。お疲れさまでした。



最終営業日の夜(月と天守とドラマ館)



ドラマ館のボランティアの皆さん

会員の交流広場

今だから笑って話せる裏ばなし



あれは、東日本大震災より前の2月の3連休で『冬の津軽とローカル線の旅3日間』の団体添乗した時のことです。

前日の夕方、名古屋は積雪で高速は通行止め、急きょ出発を1時間早めました。

当日、午前4時20分浜松駅集合できホッとするのも束の間、豊田より先が通行止めで豊川より高速を降り、もうじき豊橋駅という時「あーっ、持参金30万忘れた！」

自分の財布には3万円ほど。このピンチを救ってくださったのが観光バスの運転手さんで2万円お借りしました。これで名鉄の乗車券が買えセントレア空港に無事到着。この時、私の顔は引きつっていたと思います。



津軽鉄道ストーブ列車

雪の青森空港に降たち、津軽鉄道『ストーブ列車』に乗車、三内丸山遺跡ではボランティアガイドさんに案内していただき、

弘前城雪灯籠まつり見学、最終日は三陸鉄道久慈駅から宮古駅まで『こたつ列車』を貸切りしました。

こたつに入りお弁当を食べながら三陸海岸の冬景色を楽しみました。この時、ひとりのお客様に

「山内さん この『こたつ列車』に乗りたかったんでしょ？」と言われました。自分が乗りたくて企画したのでうれしさが顔に出ていたのですね。

お客様皆様に「私を『こたつ列車』に乗せてくださりありがとうございます」とお礼を申し上げました。震災前の景色を見ることができました。

行程中はバス乗務員さんに立て替をお願いして、施設には後払いにさせていただき、残したお金で冷麺を食べて花巻空港より帰路に着きました。

所持金ゼロで浜松に到着。運転手さんにはすぐお返しにありがとうございました。

この持参金忘れの添乗は綱渡りのようで大変でしたが、今では懐かしく『こたつ列車』が思い出されます。



海岸沿いを走る三陸鉄道



こたつ列車の内部

西ブロック 山内ひさ子

会員の交流広場

港町 気仙沼の風景を見つめて



2022年(令和4年)の11月末に宮城県の仙台、気仙沼へ行きました。浜松案内人に入会した時期でした。



紅葉の櫻岡大神宮

浜松駅から仙台駅まで、三列シートの夜行バスで朝には仙台駅に着きます。何処を回るか、ほとんど決めてなく2連泊お世話になる宿だけは確保しました。コロナ時代の旅行支援により、格安で泊まることができました。

櫻岡大神宮～青葉城(跡)資料館～伊達政宗公の銅像を見学しました。仙台駅近くの街路樹の銀杏の大木が、黄色に染まって圧巻、とてもきれいで堂々とした佇(たたず)まいでした。春夏秋そして雪景色、それぞれの季節がすてきな街でしょう。

二日目は宿から気仙沼港まで、ゆっくり歩いて行くことにしました。途中で市役所にてオススメの場所を聞いて気仙沼市東日本大震災遺構伝承館

(旧気仙沼向洋高校)へ行きました。バスがないのでタクシーの運転手さんのガイドで、変わってしまった町を見つめながら話を聞きました。

高校跡は、海から近く、津波の被害もひどかったのに、皆、助かったそうです。でも気仙沼から町中は大津波や火災で2000人近く亡くなった人がいて今もまだ更新されています。また、2023年はインドネシアとの国交樹立65周年で、技能実習生も多く働く港は8月にお祭りがあるそうです。いつかまた行きたいです。



津波到達高さ表示(気仙沼市役所)



旧気仙沼向洋高校の屋上からの眺め

中ブロック 丸山幹子

会員の交流広場

東海道五十三次を歩く !



なぜ歩こうとしたのか？

時々何も無いところをつまずいたりし、足腰に少し不安を覚えたのがきっかけで、ウォーキングを始めました。しかしいつも同じところを歩いているだけでは、正直飽きてきます。そこで思い切って以前からいつかは歩いてみたいと思っていた東海道五十三次歩きをスタートさせました。時間のある時、天気の良い時にふらっと歩きに行きました。もちろんおひとり様歩きです。

妻は、スタートした際、「京都までゴールをすることは無いな」と直感的に思ったそうです。そんなに信用がなかったのかな？（笑）

その期待を裏切りたくもあり、途中でくじけないように、SNSで発信し続けました。見ている人たちがこの街道歩きの証人にもなります。歩き始めは、本当に歩けるだろうかと思っていましたが、行程が進むにしたがって、次へ次へと気持ちが高ぶってきました。

箱根峠や鈴鹿峠が難関と言われますが、自分は日坂峠がきつく、足が何度もつりそうになり、そこが唯一くじけそうになったところでした。そんなこともいい思い出です。また宿場ごとにあの広重の絵に近い場所で写真を撮ることでモチベーションを上げていきました。江戸時代の風景や風俗と対比することは大変興味深かったです。

地元に戻っても、街道歩きは話のネタになり、意外と身近に完歩した方もおり、会話は盛り上がりま



す。
東京・京都 最終ゴールの京都三条大橋に立つ筆者間は、新幹線など使えば、短時間で移動できる距離です。足かけ3年、延べ30日。自分の足で歩くことで、各地で色々な景色を見て、食べて、地元の人と会話をし、その街々の歴史や文化に触れることで、かけがえのない経験ができました。

妻の心配もいい意味で裏切ることができ、威厳を保つことができました。行程内では、地元の方から、ガイドブックには書かれていない場所を紹介していただくなど、彩りを添えてくれました。

このことが観光ボランティアに関心を持った初めの一歩だったのかもしれませんが。その後、姫街道、伊勢街道と歩き、次は中山道に思いを馳せています。

皆さんも歩いてみませんか？

東ブロック 芥川栄人

1月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

16日 火 高知新聞観光旅クラブ 18名

《犀ヶ崖資料館》

18日 木 浜風会 15名

《同行ガイド》

22日 月 静岡大学附属浜松小学校 70名

《浜松まつり会館》

24日 水 静岡大学附属浜松小学校 63名

はままつ案内人会報 259号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946 浜松市中央区元城町100-2（浜松城内）

TEL 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地